

平成 29 年 2 月 19 日 (日) 施行

第 185 回 全経簿記能力検定試験 1 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 三 原価の本質 参照
2. 原価計算基準 第一章 六 原価計算の一般的基準 参照
3. 原価計算基準 第二章 八 製造原価要素の分類基準 参照
4. 原価計算基準 第二章 一六 原価部門の設定 参照
5. 原価計算基準 第二章 二四 総合原価計算における完成品総合原価と期末仕掛品原価 参照

第 2 問

1. $(¥635 - ¥628) \times 1,700\text{kg} = ¥11,900$ (貸方差異)
2. A 補助部門費 ¥2,400,000
 \Rightarrow 第 1 製造部門 (55%) ¥1,320,000 第 2 製造部門 (45%) ¥1,080,000
 B 補助部門費 ¥1,700,000
 \Rightarrow 第 1 製造部門 (40%) ¥680,000 第 2 製造部門 (60%) ¥1,020,000
 第 1 製造部門費 ¥1,320,000 + ¥680,000 = ¥2,000,000
 第 2 製造部門費 ¥1,080,000 + ¥1,020,000 = ¥2,100,000
3. 月末未払分の計上
4. 自家用機械の製造のため、機械勘定に振り替える。
5. 等価係数は、1 級製品 : 2 級製品 = 15 kg : 5 kg = 3 : 1

	(個数)		(等価係数)		
1 級製品	1,200	×	3	=	3,600
2 級製品	3,000	×	1	=	3,000

¥8,712,000 / (3,600 + 3,000) = @ ¥1,320

1 級製品 @ ¥1,320 × 3,600 = ¥4,752,000

2 級製品 @ ¥1,320 × 3,000 = ¥3,960,000

6. 工場と本社の仕訳は以下のとおりである。工場側の仕訳が解答となる。

(本社)	(借)	工	場	1,074,000	(貸)	減価償却累計額	1,074,000
(工場)	(借)	製造	間接費	1,074,000	(貸)	本	社 1,074,000

第3問

材 料

月初棚卸高	¥945,000	¥1,976,000	当月消費高
当月購入高	¥1,827,000		
		¥796,000	月末棚卸高

当月の実際消費量は $¥945,000 + ¥1,827,000 - ¥796,000 = ¥1,976,000$

賃金給料

当月総支給額	¥2,941,000	¥459,000	前月末未払額
		¥2,859,000	当月消費高
当月末未払額	¥377,000		

当月の実際消費量は $¥2,941,000 + ¥377,000 - ¥459,000 = ¥2,859,000$

仕掛品

0	
(0)	8,300
	(8,300)
9,000	
(8,720)	700
	(420)

仕掛品

月初仕掛品 (標準原価) ¥0	完成品 (標準原価) ¥980 × 8,300 個 = ¥8,134,000
当月投入 (実際原価) 材 料 ¥1,976,000 賃 金 給 料 ¥2,859,000 製造間接費 ¥3,832,000	月末仕掛品 (標準原価) 材 料 ¥210 × 700 個 = ¥147,000 賃 金 給 料 ¥370 × 420 個 = ¥155,400 製造間接費 ¥400 × 420 個 = <u>¥168,000</u> ¥470,400
	原価差異 ¥62,600 (貸借差額)

第4問

1. 素材と工場消耗品の購入

(借) 素 材	1,638,000	(貸) 買 掛 金	1,830,000
工場消耗品	192,000		

2. 素材の消費

予定価格は¥900/kgより、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#1003	#1101	#1102	#1101-R	間接材料
¥432,000	¥648,000	¥324,000	¥72,000	¥108,000

→ 原価計算表「直接材料費」#1003～#1101-R

(借) 仕掛品	1,476,000	(貸) 素材	1,476,000
(借) 製造間接費	108,000	(貸) 素材	108,000

3. 材料消費価格差異の計上

当月仕入の実際単価は¥1,638,000/1,800kg=¥910

素材の実際消費量は資料2より1,760kg

素材の予定消費価格は1,760kg×@¥900=¥1,584,000

素材の実際消費価格は先入先出法、および資料1より、このうち200kgは月初有高、1,560kgが当期仕入分である。

¥184,000+@¥910×1,560kg=¥1,603,600

素材の実際消費価格は¥1,603,600より、材料消費価格差異は

¥1,584,000-¥1,603,600=(△)¥19,600 (不利差異)

(借) 材料消費価格差異	19,600	(貸) 素材	19,600
--------------	--------	--------	--------

4. 棚卸減耗費

		素 材			
月初棚卸高	¥184,000	¥1,476,000	直接材料費		
		¥108,000	間接材料費		
当月仕入	¥1,638,000	¥19,600	消費価格差異		
		¥1,820	棚卸減耗		
		¥216,580	月末棚卸高		

月末実地棚卸高が¥216,580なので、貸借差額より棚卸減耗費は¥1,820 → 製造間接費へ

(借) 製造間接費	1,820	(貸) 素材	1,820
-----------	-------	--------	-------

5. 工場消耗品

		工場消耗品			
前月繰越	¥30,000	¥188,400	→ 製造間接費		
当月仕入	¥192,000	¥33,600	次月繰越		

期末実地棚卸高は¥33,600より、実際消費高は

¥30,000+¥192,000-¥33,600=¥188,400

(借) 製造間接費	188,400	(貸) 工場消耗品	188,400
-----------	---------	-----------	---------

6. 賃金給料の支払

(借) 賃金給料	2,032,200	(貸) 諸口	3,032,200
----------	-----------	--------	-----------

7. 直接工の賃金消費

予定賃率は¥800/時間より、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#1003	#1101	#1102	#1101-R	間接労務費
¥224,000	¥576,000	¥440,000	¥120,000	¥320,000

→ 原価計算表「直接労務費」#1003～#1101-R

(借) 仕掛品	1,360,000	(貸) 賃金給料	1,360,000
(借) 製造間接費	320,000	(貸) 賃金給料	320,000

8. 賃率差異

		賃金給料 (直接工)			
当月支払高	¥1,710,200	¥440,000	月初未払高		
月末未払高	¥384,000	¥1,360,000	直接作業分		
賃率差異	¥25,800	¥320,000	間接作業分		

月末未払賃金高が¥384,000なので、実際消費高は

$$¥1,710,200 + ¥384,000 - ¥440,000 = ¥1,654,200$$

よって賃率差異は

$$¥1,680,000 - ¥1,654,200 = ¥25,800 \text{ (有利差異)}$$

(借) 賃金給料	25,800	(貸) 賃率差異	25,800
----------	--------	----------	--------

9. 間接工の賃金消費

		賃金給料 (間接工)			
当月支払高	¥322,000	¥88,000	月初未払高		
月末未払高	¥78,000	¥312,000	実際消費高		

取引6より、間接工に対する支払額は、総額から直接工分を引く

よって実際消費高は

$$¥322,000 + ¥78,000 - ¥88,000 = ¥312,000$$

(借) 製造間接費	312,000	(貸) 賃金給料	312,000
-----------	---------	----------	---------

10. 製造部門費の製造指図書への配賦

予定配賦率は第1製造部門費¥640、第2製造部門費¥800より、機械作業時間をもとに配賦

	#1003	#1101	#1102	#1101-R	合計
第1製造部門費	¥134,400	¥294,400	¥281,600	¥57,600	¥768,000
第2製造部門費	¥80,000	¥264,000	¥256,000	¥40,000	¥640,000

→ 原価計算表「第1製造部門費」「第2製造部門費」#1003～#1101-R

(借) 仕掛品	768,000	(貸) 第1製造部門費	768,000
(借) 仕掛品	640,000	(貸) 第2製造部門費	640,000

11. 外注加工賃

(借) 仕掛品	200,000	(貸) 外注加工賃	200,000
---------	---------	-----------	---------

12. その他の経費の支払

(借) 製造間接費	324,000	(貸) 現金	324,000
-----------	---------	--------	---------

13. 減価償却費の製造間接費への計上

(借) 製造間接費	150,000	(貸) 減価償却累計額	150,000
-----------	---------	-------------	---------

14. 製造間接費の各原価部門への振り替え

(借) 第1製造部門費	566,820	(貸) 製造間接費	566,820
(借) 第2製造部門費	470,000	(貸) 製造間接費	470,000
(借) A補助部門費	238,000	(貸) 製造間接費	238,000
(借) B補助部門費	129,400	(貸) 製造間接費	129,400

15. 補助部門の製造部門への配賦

問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門
A補助部門費	¥142,800	¥95,200
B補助部門費	¥64,700	¥64,700

(借) 第1製造部門費	142,800	(貸) A補助部門費	238,000
第2製造部門費	95,200		
(借) 第1製造部門費	64,700	(貸) B補助部門費	129,400
第2製造部門費	64,700		

16. 作業くず評価額の控除

(借) 作業くず	2,500	(貸) 第1製造部門費	2,500
----------	-------	-------------	-------

17. 製造部門費配賦差異の計上

(1) 第1製造部門費

予定配賦額は ¥640(予定配賦率) × 1,200 時間 = ¥768,000

実際発生額は 14.・15.・16.より ¥566,820 + ¥142,800 + ¥64,700 - ¥2,500 = ¥771,820

部門費配賦差異は ¥768,000 - ¥771,820 = (△) ¥3,820 (不利差異)

(借) 製造部門費配賦差異	3,820	(貸) 第1製造部門費	3,820
---------------	-------	-------------	-------

(2) 第2製造部門費

予定配賦額は ¥800(予定配賦率) × 800 時間 = ¥640,000

実際発生額は 14.・15.より ¥470,000 + ¥95,200 + ¥64,700 = ¥629,900

部門費配賦差異は ¥640,000 - ¥629,900 = ¥10,100 (有利差異)

(借) 第2製造部門費	10,100	(貸) 製造部門費配賦差異	10,100
-------------	--------	---------------	--------

摘 要	合 計	第 1 製造部門	第 2 製造部門	A 補助部門	B 補助部門
部 門 費 合 計	1,404,220	566,820	470,000	238,000	129,400
A 補 助 部 門 費	238,000	142,800	95,200		
B 補 助 部 門 費	129,400	64,700	64,700		
作 業 く ず 評 価 額	2,500	2,500	—		
実 際 発 生 額	1,401,720	771,820	629,900		
予 定 配 賦 額	1,408,000	768,000	640,000		
部 門 費 差 異	(+) 6,280	(-) 3,820	(+) 10,100		

18. 補修指図書#1101-R→製造指図書#1101 への賦課

原価計算表より、補修指図書#1101-R は¥289,600

(借) 仕 掛 品	289,600	(貸) 仕 掛 品	289,600
-----------	---------	-----------	---------

→原価計算表「補修費」

製造指図書#1003 と#1101 が完成したので

¥1,624,400 + ¥2,072,000 = ¥3,696,400 を仕掛品から製品に振り替える。

(借) 製 品	3,696,400	(貸) 仕 掛 品	3,696,400
---------	-----------	-----------	-----------